

総務教育常任委員会資料

(平成30年9月19日)

【項目】	ページ
1 平成30年度第2回鳥取県総合教育会議の開催結果について 【とっとり元気戦略課】・・・	1
2 日本財団との連携事業による人材育成プログラムの実施結果について 【とっとり元気戦略課】・・・	3
3 日米知事フォーラム2018への参加結果について 【広域連携課】・・・	4
4 伸びのびトークin大山町の開催結果について 【県民課】・・・	5
5 平成30年度個人情報適正管理監査の結果について 【県民課】・・・	6
6 鳥取県への関係人口の拡大に向けた取組について 【とっとり暮らし支援課】・・・	別冊
7 平成30年度東京都武蔵野市家族自然体験交流の受入れについて 【とっとり暮らし支援課】・・・	7
8 「とっとり県民の日」に係る取組について 【参画協働課】・・・	8

元気づくり総本部



平成30年度第2回鳥取県総合教育会議の開催結果について

平成30年9月19日
とっとり元気戦略課
教育総務課

本年度2回目の鳥取県総合教育会議を開催しましたので、その結果を報告します。

1 日時等

- (1) 日時 平成30年9月10日(月) 午後3時から5時まで
(2) 場所 鳥取県庁 議会棟3階 特別会議室

2 出席者

知事、教育委員会(教育長、教育委員)、有識者委員

3 概要

(1) 意見交換

以下のア～エのテーマについて、教育委員会等の説明後に意見交換を行った。

ア 平成30年度「全国学力・学習状況調査」の結果と対応策 [資料1-1～1-5]

小学校の算数並びに中学校の国語や数学で全国平均を下回ったことなどを踏まえ、今後、学力向上推進プロジェクトチームを設置し、抜本的な対策の検討、学習意欲向上に向けた授業改善などに取り組むことを説明した。

<主な意見>

- ・子どもが学びに向かうモチベーションを高めることが大切であり、学習面や生活面において課題を生徒に決めさせるなど、生徒自身の自主自立を尊重した学びが重要なポイントである。
- ・総じて宿題の量が多く、また学校によって量にばらつきがあるなど、生徒にとって本当に力が付くような宿題の出し方になっているのか疑問を感じる。個々の生徒の学力に応じて内容を変えるなど、宿題の出し方を工夫してはどうか。
- ・家庭における自己学習のやり方を知らない子が多い。学校で家庭学習の方法などを丁寧に教えるようにしてはどうか。
- ・宿題を出す以上、宿題を提出しない子には居残りさせるなど、責任を持って見届けていただき、鳥取の子ども達にはルールを守る、最後までやり通す子に育て欲しい。
- ・次の世代の子ども達を育てるため、これまでの教育の何を維持し、何を变えるべきかを考える時期だと思う。多様な子ども達が居て当たり前な今の時代、ベースとなる部分を持ちつつ、個々の能力に対応できる授業の仕組みが必要である。

イ ふるさと教育の推進 [資料2]

少子化や若者の県外流出など本県が抱える課題に対し、ふるさと鳥取に愛着と誇りを持ち、郷土を支える人財育成の取組が急務として、小中高で一貫したふるさと教育の体系化や児童生徒用の「鳥取県版ふるさと教育読本」(仮称)の作成等の対応策について説明した。

<主な意見>

- ・各自治体が様々なふるさと教育に取り組んでいるが、本当に身に付く取組にするためには、学校での学習や地元での体験学習などそれぞれ個別に行うのではなく、それらが一体となって完結する仕組みを考えることが必要である。
- ・地元の地理や歴史を調べて英語で話し合うといった科目横断的指導という手法があるが、ふるさと教育においても、調理や農作業等の体験型学習と英語授業を融合させるなど、鳥取県の独自色を打ち出した取組を行ってはどうか。
- ・学校だけでなく、家庭の役割も重要となるが、地元のことを知らない親が多い。家庭で親子が一緒にふるさとを学ぶような取組を進めて欲しい。
- ・東京の大学生へ鳥取の良さを説明する、沖縄の人へ鳥取の交通事情を説明するなど、誰かに対して何かを伝えるという具体的な目標ができれば、子ども達も地元のことを学びやすくなり、コミュニケーション力もより豊かになると思う。

- ウ 次期『鳥取県の「教育に関する大綱」(次期大綱)』の方向性(案) **資料3**
 若者の県内定着やUターン対策、また少子高齢化など時代の変化に対応できる教育環境の必要性の観点から、『「ふるさと鳥取」を支える人材の育成』、『時代や社会の変化に対応できる教育環境の充実』を新たな項目とするなど次期大綱の方向性(案)について説明した。

<主な意見>

- ・学ぶ意欲の向上や高等学校の今後の在り方などが盛り込まれており、大変ありがたい。

- エ 県立美術館整備の検討状況 **資料4**
 平成30年7月に策定した「鳥取県立美術館整備基本計画」の概要について説明した。

(2) 知事総括

- ・今日いただいたご意見を受け、教育委員会と知事部局とで責任を持って話し合いを行い、学力向上やふるさと教育など、新しい方向性をしっかり検討させていただきたい。
- ・学力向上対策における学力向上推進プロジェクトチームの設置については、民間の塾関係者など実務的な方や学力向上に積極的に取り組んでいる首長などにも参画してもらえば、議論がより活性化するのではないかと思う。
- ・学力向上に向けて、子ども達のモチベーションを高めるためには、画一的な指導ではなく、子ども達が自ら何かを達成することが大事である。そのためにも、ふるさと教育をはじめ、学力向上に向けた教育メソッドの開発などにおいて、子ども達の興味があることに寄り添って、達成感を持つような仕掛けづくりについて、教育委員会でよく検討していただければと思う。
- ・ふるさと教育は、別に時間を設けるものではなく、副読本などのテキストを参照しながら、体験活動をする事自体が社会科の学習そのものになるなど、既存のカリキュラムの中に上手に取り込んでいくことができると思う。
- ・次期大綱は、今後、大きな動きが見込まれる高校の在り方を考える時期と重なるため、高校の在り方の検討について盛り込むよう考えていきたい。

4 今後の予定

委員からの意見を踏まえ、学力向上推進プロジェクトチームにおける抜本的な対策の検討をはじめ、ふるさと教育の推進など、平成31年度当初予算事業を検討するとともに、次期教育大綱の素案を次回の総合教育会議(平成31年1月開催予定)で提示する予定である。

<参考>有識者委員名簿

氏名	主な所属
青戸 忍	医療法人養和会 養和病院 医療相談室長、鳥取県精神保健福祉士会 事務局長
石原 太一	進路指導塾ドリームラーナーズ 代表
大羽 沢子	鳥取大学医学部附属病院 子どもの心の診療拠点病院推進室 特命専門職(臨床心理士)
上萬 貴志	社会福祉法人鳥取福祉会 運動指導員
津島 望	鳥取県PTA協議会 理事
長曾 加奈子	若葉学習会専修学校 講師
横井 司朗	学校法人鶏鳴学園 理事長、全国専修学校各種学校総連合会 理事

日本財団との連携事業による人材育成プログラムの実施結果について

平成30年9月19日

とっとり元気戦略課

高校生が地域の課題を掘り下げ、その解決策を考える演習を行う合宿型のプログラム「ソーシャルイノベーションハイスクール」を日本財団との連携事業として実施しました。

最優秀「ソシヤガ賞」を獲得した高校生は、様々な分野で社会的な課題に対応して活躍している方々が東京に集い議論を行う日本財団主催のフォーラムにおいて、検討した内容を発表しました。

1 日 時 平成30年8月4日(土)～6日(月) 2泊3日

2 場 所 山の宿 中の原ぎんれい(西伯郡大山町大山)

3 参加者 県内高校生 38名

東部：28名(鳥取東7、鳥取西1、鳥取工業4、智頭農林3、鳥取城北10、青翔開智3)
中部：7名(倉吉総合産業6、倉吉北1)
西部：3名(米子西2、米子南1)

4 プログラム

1日目(8/4(土)) 全体説明、検討するテーマ決め

2日目(8/5(日)) テーマに沿った解決策や自分の役割の検討、発表準備

3日目(8/6(月)) それぞれの高校生による検討結果の発表、審査結果の発表

5 開催結果

参加者全員の発表の後、日本財団や島根県海士町で高校を核としたまちづくりを進めている岩本悠氏等により審査し4組を選定した後、参加高校生の投票も加えて最優秀賞を決定した。

(1) 内田さん(鳥取城北高校) 岡本さん(米子西高校) **最優秀(ソシヤガ賞)**

現在行われているモンゴルとの国際交流活動に、高校生が行う日本語指導や相撲大会などの交流機会の追加によって、観光客や移住者を増やす国と国をつなぐ交流活動

(2) 澤口さん(鳥取東高校)

家庭環境に問題がある子供を受け入れ、高齢者と共に高校生が運営に関わる子供食堂

(3) 山根さん(鳥取工業高校)

安心して営農できる環境をつくる獣害対策(狩猟免許取得)の推進とジビエ料理の提供

(4) 三谷さん、原田さん(鳥取東高校) 小椋さん(鳥取城北高校)

高校生の中で流行している動画サイト(Tik Tok)による、鳥取の魅力を拡散する情報発信

6 検討結果の発表(ソーシャルイノベーションフォーラム(9月9日 青山学院大学 渋谷キャンパス))

高齢化社会の進行と共に18歳未満の若者(U18)の人口割合が相対的に低下するなか、U18の声が政策や施策へと活かされる社会づくりを目指した議論を行うフォーラムにおいて、人口最少の鳥取県、東日本震災を受けた福島県、大都市渋谷の高校生が検討結果や取組を事例発表した。

このフォーラムでは、U18は「支えられる側」としか評価されていないのではとの問題提起や、前例が通用しないこれからの時代ではU18が地方創生の突破口となるのではとの可能性が提示され、最後に笹川会長が、何時も時代を変えていくのは若者であり、このような心ある若者が社会を変えられるとの「気づき」が得られるよう助けていく事の大切さについて発表された。



合宿に参加した高校生



フォーラム登壇者との記念撮影

日米知事フォーラム2018への参加結果について

平成30年9月19日
広域連携課

1995年以来23年ぶりの開催となる日米知事フォーラムが8月27日、28日に東京で開催されましたが、その概要は以下のとおりです。

- 1 日時 平成30年8月27日(月)、28日(火)
- 2 場所 ホテルニューオータニ、都道府県会館ほか
- 3 参加者 アメリカ側
ネバダ州知事(前全米知事会会長) ブライアン・サンドバル
ケンタッキー州知事 マット・ベビン
ニューメキシコ州知事 スザナ・マルティネス
ネブラスカ州副知事 マイク・フォーリー
グアム準州経済開発庁長官 ジェイ・ロハス

日本側
埼玉県知事 上田 清司(全国知事会会長)
茨城県知事 大井川 和彦
愛知県知事 大村 秀章
奈良県知事 荒井 正吾
鳥取県知事 平井 伸治
岡山県知事 伊原木 隆太
広島県知事 湯崎 英彦
香川県知事 浜田 恵造

4 主な議論

(1) 新産業創出と国際投資促進における地方政府の役割

米国各州、日本の各県の産業創出等の取組についての発表の後、意見交換を実施した。

ネバダ州においては、テスラモーター社とパナソニックの協業により、大きな雇用創出があること、ケンタッキー州では日本からの投資が中国からの投資を上回っていること、ネブラスカ州では日本への牛肉の輸出が伸びていること、グアムでは観光産業が中心であること、などの事例が発表された。

意見交換においては、奈良県の観光産業を事例に、どうすれば国際的なホテル投資が行われるかなどの視点から意見交換が行われた。

(2) 人材育成と教育

米国各州、日本の各県の人材育成の取組について発表し、意見交換を実施した。

ネバダ州では企業における即戦力となる人材を育成するため、受講により労働賃金が上昇する仕組みを組み込んだ教育プログラムを実施していること、ネブラスカ州では日本からの進出企業を手本に「カイゼン」を取り入れた人材育成を実施していることなどが発表された。

意見交換において、今後国際的に活躍する人材を育成するためにはどのような取組が必要かという視点で議論が行われ、日米両国で学生が相互に行き来し学習すること、今回のようにベストプラクティスを交換し相互に活用することなど意見が出された。

※今回の日米知事フォーラムにおいては、日米の知事同士の交流だけではなく、日本貿易振興機構(JETRO)や経団連主催の意見交換会も行われており、日米の経済的つながりを重視したものとなった。

伸びのびトーク in 大山町の開催結果について

平成30年9月19日
県民課

県民の皆様（住民・NPO法人・経済団体・地域活性化等に取り組む団体等）と行政関係者等が、その地域が直面する課題などについて意見交換を行う「伸びのびトーク」を大山町で開催しました。

- 1 日時 平成30年9月1日（土） 午後3時30分から5時30分まで
- 2 場所 大山農村環境改善センター
- 3 参加者 地域自主組織まちづくり大山 会長 馬田栄司氏
(16名) 副会長 遠藤雅士氏
副会長 陶山成昭氏 他7名
大山町長、副町長、議長
知事、元気づくり総本部長、西部総合事務所長

4 意見交換のテーマ・主な意見等

テーマ 「子どもから高齢者までの生活支援」

〔主な意見等〕

- ・高校進学を機に、通学の困難さから米子市に引っ越す家庭や子どもがいて、地元との繋がりが薄れている。将来地元に戻ってくる取組がとても必要である。大山古道や孝霊山登山道を整備し、町内外の幼稚園児・小中学生等に登山により親しんでもらう取組をしている。
- ・高齢者は地元に住み続けたいという希望が多いため、いつまでも健康に地元で暮らし続けられるよう鳥取大学や民間企業と連携した健康づくりの取組（学習会の開催や家庭訪問等）を進めている。
- ・住民の日常生活のお手伝いを行う「おたすけ隊」は好評であり、除雪や草刈りの際など助け合いの心で行っている。他の地区のモデルになる取組ではないか。
- ・移住者が取組に加わって活気が出てきた。外からの視点を大切にしていきたい。
- ・これから取り組んでいきたい地域課題は、高校生の通学支援（大山口駅と大山農村環境改善センター間の送迎）と子どもの居場所づくり（高校生の学習サロン、小学生の土曜日児童クラブ）であり、県や日本財団の支援を得ながら取り組み、10月には実証を始める予定である。

〔知事発言〕

- ・少ない予算の中、子どもから高齢者までのニーズを汲み取った取組は素晴らしい。除雪等共助の取組は他地区のモデルになるものである。
- ・大山町の地域課題である交通と、子どもの居場所づくりへの取組は今後注視していくとともに、日本財団、県も町と一緒に頑張って応援していきたい。

【意見交換の様子】



○伸びのびトークの開催状況

平成30年度：2回
伯耆町（6/10）・大山町（9/1）
平成29年度：5回
北栄町・湯梨浜町・南部町・日南町・江府町

〔大山町での過去の開催概要〕

- (1)開催日：H26.7.7、会場：まぶや
テーマ：人口減少社会に対応する住民主体のまちづくり
- (2)開催日：H25.7.4、会場：大山ものづくり学校
テーマ：若者定住とまちづくりについて語る

平成30年度個人情報適正管理監査の結果について

平成30年9月19日
県 民 課

個人情報の適正な管理のため、監査を実施しましたので、その結果を報告します。

1 監査実施内容等

- ・対象所属 知事部局及び企業局の計184所属
書面監査：全所属がDB入力〔期間：平成30年7月9日～20日〕
実地監査：11所属（各部局から1所属）〔期間：平成30年8月1日～6日〕
- ・実施内容 個人情報事務登録簿の登録状況、個人情報の管理状況、個人情報流出防止対策強化期間の設定状況、個人情報取扱事務責任者の設置状況、個人情報流出を防ぐための職場環境の整備状況、個人情報流出防止の手引きにあるチェックリストの活用状況、その他個人情報の取扱いに関すること

2 結果概要

全体として概ね適正に個人情報は管理されていたが、一部の所属において管理や対応の不備等があった。

(1) 改善事項

①個人情報事務取扱簿の登録、点検が不十分【6所属】

所属で扱っている個人情報が「個人情報取扱事務登録簿データベース」に正しく登録されていない所属、情報の更新が漏れていた所属が見られた。

(消防学校、河川課、東部振興課、とっとり賀露かにっこ館、栽培漁業センター、中小家畜試験場)

②個人情報を含む簿冊、ファイル等の保管が不十分【3所属】

簿冊の中に個人情報を含むものが混在し、整理されていない所属、個人情報を含む簿冊を施錠可能な書棚で管理していない所属が見られた。

(交流推進課、八頭県土整備局河川砂防課、産業人材育成センター米子校)

③複数人によるチェック体制の不備【4所属】

個人情報を含む文書の発送等の際、複数人によるチェック体制が執られていない所属が見られた。

(消費生活センター、水環境保全課、中部県土整備局道路都市課、中部農林局地域整備課)

(2) 助言・指導事項

①個人情報流出防止強化期間の設定【53所属が未設定】

各所属で「個人情報流出防止対策強化期間」を定め、防止対策方針を作成して通常以上に注意を促すことを指導しているが、53所属が期間を設定していなかった。

②個人情報流出防止に係る研修への参加【43所属が未参加、6所属が伝達研修未実施】

各所属は個人情報流出防止研修に参加し、受講後は研修内容を所属職員に伝達するように指導しているが、43所属が研修に未参加であり、研修に参加した所属のうち6所属が伝達研修を実施していなかった。

③チェックリストの活用【67所属が未活用】

各所属は個人情報を取扱う業務ごとにチェックリストを活用し、確認作業を行い、誰がどの作業を行ったか記録に残すように指導しているが、67所属がチェックリストを活用していなかった。

3 対応状況

改善事項については、該当する所属長に対し措置結果の報告を求め、助言・指導事項については全庁的に注意喚起の通知を行った。

<参考：個人情報の流出状況>

年度	平成30年度	平成29年度	平成28年度	平成27年度
流出件数	1件	14件	13件	8件
主な流出内容	誤送付 1件	誤送付、誤配布 8件 誤送信(FAX) 2件 紛失等管理不徹底 2件 ウェブサイト誤掲載 2件	誤送付、誤配布 10件 誤送信(FAX、メール) 1件 紛失等管理不徹底 1件 ウェブサイト誤掲載 1件	誤送付、誤配布 7件 ウェブサイト誤掲載 1件

平成30年度 東京都武蔵野市家族自然体験交流の受入れについて

平成30年9月19日
とっとり暮らし支援課

鳥取県と東京都武蔵野市は、都市と農山村の住民が交流を通じて、相互への理解を深めることを目的とした協定を平成15年度に締結し、交流を継続しています。

今年度は、以下のとおり1市3町（鳥取市、岩美町、若桜町、八頭町）で28家族79名を受け入れました。

- 1 受入期間 平成30年8月23日（木）から27日（月）まで（4泊5日）
- 2 受入家族数 28家族（79名）※武蔵野市在住、在園、在学の子ども及びその家族
- 3 体験内容

日 程	体験先	体験内容
23～25日 (1～3日目)	岩美町	民宿に滞在し、海水浴、遊覧船乗船、貝殻を使った創作体験、歓迎夕食会 など
25日(3日目)	鳥取市(福部町)	鳥取砂丘・砂の美術館見学
25～27日 (3～5日目)	鳥取市(佐治町)	自然散策体験、五右衛門風呂体験、魚のつかみどり、アストロパーク見学、かみんぐ百彩見学 など
	鳥取市(河原町)	名所散策(窯元見学等)、野菜収穫体験・カレー作り、湯谷温泉入浴、魚のつかみ取り、ジビエバーベキュー など
	若桜町	おもちゃ館見学、若桜鉄道乗車体験、鹿革三角財布作成体験、カレーライスづくり、ウィンナー作り体験、わら細工、魚釣り など
	八頭町	木工ワークショップ、バーベキュー、杵臼での餅つき体験、竹の切り出し、そうめん流し、川遊び など

4 参加家族の声

- ・機会を見つけて、鳥取県に再訪したいし、(宿泊した民泊の方と)年賀状などで関係を続けたい。
- ・鳥取県に来て、大好きな地方のまちができて幸せである。おもてなしして下さった地域の方に何か御礼がしたい。
- ・充実したプログラムはサイコー！！の一言である。友人知人にも早速「若桜町にはSLや昭和など鉄道があって・・・」と伝えた。



浦富海岸での海水浴



山間部でのそうめん流し

5 その他

武蔵野市の家族の受入れは今年で13回目を迎え、延べ1,368人(426家族)が来県された。(平成25年度以降、隔年で実施している。)

「とっとり県民の日」に係る取組について

平成30年9月19日
参画協働課

県民が鳥取県について学び、ふるさとに愛着と誇りを持っていただくことを目的として、「とっとり県民の日」である9月12日に合わせ、民間事業者、教育委員会・市町村等と連携し、次のとおり各種取組を実施しましたので、その概要を報告します。

1 イオンと連携した「県民の日イベント」の実施（9月8日～12日）

○イオンモール鳥取北

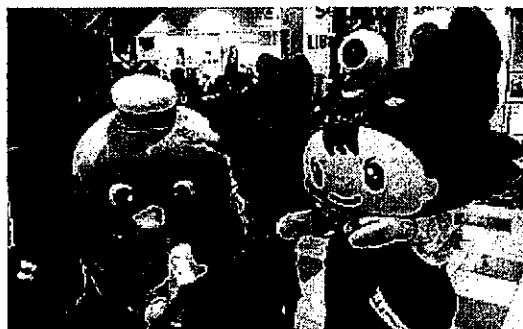
県内事業者による県産品の販売、県内活動団体による活動発表・体験イベント、鳥取県の魅力を俳句調で詠んだ「とっとり いいね！かるたコンテスト」、星取県プラネタリアム、とりアートとの連携による音楽・ダンスステージ等を実施した。



【地域活動団体によるステージイベント】

○イオンモール日吉津

県内活動団体等による体験イベント、鳥取県の魅力を俳句調で詠んだ「とっとり いいね！かるたコンテスト」、琴の浦特別支援学校による野菜販売、とっとり花回廊によるワークショップ等を実施した。



【トリピー・ととリンによる県民の日PR】

<お客様の声>

- ・「星取県」プラネタリアムはとても綺麗だった。ぜひ本物の夜空も眺めてみようと思った。
- ・県民の日のことを子どもが知っていて驚いた。鳥取県の成り立ちなど、歴史の勉強になった。
- ・子どもがトリピーが大好きで大喜びだった。
- ・「とっとり いいね！かるたコンテスト」（読み札）は秀作ぞろいで選ぶのがたいへんだった。あらためて鳥取の魅力の多さを感じた。

2 エスマート、マルイと連携した「県民の日イベント」の実施

県内エスマート各店（全12店舗）において、平成30年9月1日から12日までの間、2,000円以上の買物で県産食材が抽選で当たるイベントを実施し、また、県内マルイ各店（全11店舗）において、買物をされた方にとっとり県民の日啓発グッズをプレゼントした。

<お客様の声>

- ・昨年も応募した。この企画が「とっとり県民の日」を思い出すきっかけとなっている。
- ・二十世紀梨の季節に「食のみやこ鳥取県」ならではの良い取組だと思う。

3 図書館におけるパネル等の展示

(1) 学校図書館及び市町村立図書館において、とっとり県民の日のパネルを展示した。

<取組例>青谷高校、米子西高校、境高校、鳥取盲学校、豊学校ひまわり分校、境港市民図書館

(2) 県立図書館において、ギャラリー展示「糸賀一雄顕彰展」を開催した。

4 公文書館等による特別企画展の開催

(1) とっとり県民の日特別企画展「鳥取県の誕生とその魅力」

会期 平成30年8月28日(火)～9月21日(金)

場所 県庁本庁舎1階ロビー周辺

内容 とっとり県民の日の趣旨・取組の紹介、鳥取県の魅力紹介
鳥取県のあゆみ(廃藩置県、再置運動、再置後の県政など)

(2) 明治150年特別企画展「明治時代の鳥取県—維新から大正改元までの記録—」

会期 平成30年9月8日(土)～10月23日(火)

場所 鳥取県立公文書館及び鳥取県立図書館

内容 明治時代の鳥取県政の歩みを、公文書や写真等を元に、主な出来事、人物等にスポットを当てながら紹介する企画展示。

5 ふるさと「とっとり」講師の派遣

児童・県民等に鳥取県の歴史や地域の魅力を伝え、ふるさとへの理解を高めるため、専門的な知識を有する講師を学校・公民館等に派遣した。

<取組例>実施日:平成30年9月13日 対象:鳥取市立富桑小学校(6年生:20名)

内容:鳥取の歴史とすぐれもの 講師:奥村一成氏(元小学校校長)

6 学校における「とっとり県民の日」一斉取組の実施

「とっとり県民の日」に、全ての小中高校・義務教育学校・特別支援学校の児童・生徒が、ふるさと鳥取県について考える機会を設けた。

<取組例>ホームルーム等の時間を活用し、鳥取県誕生の経緯やとっとり県民の日の趣旨を説明したり、県産品クイズなどを行った。

7 学校給食における県民の日メニューの提供(9月12日など)

給食を提供する県内の小中学校、義務教育学校、特別支援学校187校において、県民の日にちなみ、地域色を生かした地産地消メニューを提供した。

<取組例>鳥取市立第一学校給食センター

- ・大山小麦全粒パン ・あごフライ(鳥取県産あご使用)
- ・星宙(ほしぞら)サラダ(オクラを星に見立てたサラダ。鳥取県産たこ・らっきょう使用)
- ・ベーコンときのこのスープ(鳥取県産シイタケ・エリンギ・たまねぎ)
- ・デザート(二十世紀梨シャーベット)

8 各種媒体による広報展開

次のとおり県政広報による啓発を実施した。

(1) テレビCM[平成30年9月1日～12日(計72本放送。日本海テレビ、山陰放送、山陰中央テレビ)]

(2) 漫画を活用した新聞広告[平成30年9月8日(日本海新聞)]

(3) 県政だより9月号、県庁前電光掲示板への表示等

9 県立施設・市町村立施設の無料開放・料金割引

26施設

<主な施設>

とっとり花回廊、コカ・コーラボトラーズジャパンスポーツパーク、県営鳥取屋内プール、県立博物館、わらべ館、鳥取二十世紀梨記念館なしっこ館、みなとさかい交流館、鳥取市歴史博物館(やまびこ館)、因幡万葉歴史館、仁風閣、鳥取砂丘こどもの国、青山剛昌ふるさと館等

※無料開放期間、料金割引期間は施設によって異なる。

